

国語

第4学年

育成を目指す資質・能力

【知識・情報活用能力】【協働性】【自己肯定感】

単元名

神楽紹介リーフレットを作ろう

教材文「アップとルーズで伝える」

【単元の概要】

児童は、神楽に携わる地域の方からの依頼をきっかけに、神楽の魅力を多くの人に伝えたいという意欲をもちます。写真と文章で分かりやすく説明できるものとしてリーフレットを素材に選び、教材文を通して、伝えたいことの中心を明らかにすること、写真と文章の対応など説明の仕方の工夫を学びます。それらを生かして、神楽の魅力を紹介するリーフレットを作成します。

学習指導要領における領域・内容

B 書くこと ウ

C 読むこと イ

他教科等との関連

道徳の時間

◆単元の目標

写真と文章を対応させながら段落相互の関係や中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら読むことができるとともに、相手と目的に応じて材料を選び、書こうとすることの中心を明確にし、写真と文章を関連させながら書くことができる力を身に付ける。

◆単元の展開（全 15 時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>課題の設定（1）</p> <p>地域の方からの「東京公演で、神楽のことをよく知らない人に神楽の魅力を紹介するものを作ってほしい」という依頼を受け、伝えたい魅力について話し合う。</p> <p>神楽の魅力をどのような方法で伝えるか考え、教材文の学習と結び付くことに気付く。</p> <p>学習計画を立てる。</p>	<p>○美土里の神楽を東京で紹介するんだって。 ○どんなものを作って配ったらいいかな。 ○私は、衣装や早変わりのことを伝えたいな。 ○立ち合いの場面やオロチの登場も迫力があるよね。 ○道徳の時間に会長さんの話を聞いて、神楽に対する熱い思いが伝わってきたね。神楽の魅力をたくさんの人に知ってもらいたいね。</p> <p>「依頼をきっかけに、神楽には様々な魅力があることを改めて感じる。」</p> <p>○神楽のことをよく知らない人だったら、神楽ってこういうものだっていう全体の説明があるよね。 ○写真と説明で伝えたらいいよ。 ○配るんだったら、ちらしやパンフレットがいいかな。 ○リーフレットなら、パンフレットよりページが少ないよ。初めて知る人に伝えるには、あまりページが多くない方がいいよ。</p> <p>「条件に合う素材としてリーフレットを選び、ゴールとなる作成物のイメージをもつ。」</p> <p>○リーフレットには、アップで撮った写真や遠くから撮った写真などが使われているね。 ○アップという言葉が教科書にのっていたよ。 ○アップとルーズの写真をどういうふうに使ったらいいのかな。 ○『アップとルーズで伝える』で勉強したことがリーフレットに使えるだね。</p> <p>「教科書教材を使って学習する意味を実感する。」</p> <p>○「アップとルーズで伝える」でリーフレットに使える説明の仕方の工夫を見付けたいな。 ○神楽の魅力を調べたり写真を集めたりしよう。</p> <p>「今後への見通しをもつ。」</p>	<p>【道徳の時間】 神楽を題材とした資料（「神楽の里で」）を扱い、ゲストティーチャーの神楽協議会会長に、伝統芸能「神楽」に対する思いを聞く機会をもつ。</p> <p>■神楽協議会会長からのビデオレターという形で、児童に依頼を提示する。</p> <p>■神楽の全体の写真と部分の写真を提示する。 ■事前に集めたリーフレットを教室に配置しておき、「写真」「文章」「手に取りやすい」といった条件を満たすものとして児童が自ら選択し、作成物のイメージをもてるようにする。 ■ちらし等も例示できるようにしておき、文字による情報量の違い等に目を向けさせる。</p> <p>■複数のリーフレットを比較させながら、写真の提示の仕方に目を向けさせる。</p> <p>■ゴールに向けてどのような活動が必要か、児童自身が考えることにより、学習を創っていく意識をもたせるとともに、相手意識や目的意識を明確にさせる。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
情報の収集（４）		
<p>教材「アップとルーズで伝える」から筆者の説明の工夫を読み取る。</p>	<p>○写真と文章を使って、「アップ」と「ルーズ」の対比がはっきり分かるようにしているんだな。</p> <p>○それぞれの段落の内容や役割を考えると、段落と段落がつながり合って文章ができていくことが分かってきたよ。</p> <p>○カーブの優勝を伝える新聞でも、選手の喜びを伝えるときは選手の表情のアップを使い、観客の喜びを伝えるときは、観客席全体のルーズの写真を使っていたね。</p> <p>○伝えたい内容に合わせてアップかルーズかを選択することが大事なんだね。</p> <p>○写真について、文章でくわしく説明するという工夫は、リーフレット作りに使えそうだな。</p> <p>リーフレットを作成するという目的に向かって、進んでリーフレット作りに生かせる筆者の工夫を読み取っている。</p>	<p>■写真と文章の関係に注意し、段落相互の関係を考えながら筆者が伝えたいことを読み取らせる。</p>
整理・分析（１）		
<p>筆者の説明の工夫の蓄積を基に、リーフレットに生かしたいことを「とらの巻」にまとめる。</p>	<p>○教材文や本物のリーフレットから見付けた「分かりやすく説明するための技」をまとめよう。</p> <p>○リーフレットを作るときに、チェックリストにもなるね。</p> <p>○伝えたい内容に合わせて「アップ」と「ルーズ」の写真を選ぶことは絶対いるね。</p> <p>○写真と対応させた文章を書くことが大事だよ。</p> <p>○具体的な例をあげると、読む人が分かりやすいんだね。</p> <p>○問いかけや呼びかけも、うまく使いたいね。</p> <p>見付けた技の中から選択して、自分が作成するリーフレットに生かしていこうという意欲を高めている。</p>	<p>■分かりやすく説明するための技をまとめておくことで、作成の際にチェックリストになったり、他教科や他単元の学習にも生かせたりすることを意識させる。</p>
情報の収集（３）		
<p>リーフレットにのせたい内容を決め、取材する。取材したことを取材カードにまとめる。構成と伝えたい内容を考えながら、アップとルーズの写真を選択する。</p>	<p>○安芸高田の神楽の特徴って何だろう。</p> <p>○協議会の会長さんに神楽資料館を案内してもらったり、インタビューさせてもらったりしたので、伝えたい魅力の情報がもっとくわしくなったよ。</p> <p>○神楽のことをよく知らない人に、神楽ってこういうものだというのを伝えるには、アップよりルーズの写真で、神楽の雰囲気传达了方がいいね。</p> <p>○私は、地域の神楽団の人に小道具の話を聞いてきたよ。小道具を持って舞っているルーズの写真と、その小道具のアップの写真を使ったら、魅力が伝わりやすくなるね。</p> <p>インタビューをしたり、神楽が紹介された本を利用したりしながら、課題に対する意欲を継続させ、粘り強く情報収集している。</p>	<p>■必要な情報を求めて試行錯誤する時間を確保することで、自分の欲しい情報がない場合にどうすればよいのか、一つの情報だけを抽出してよいのか等を判断する力を養う。</p> <p>■伝えたい内容が同一の児童同士による情報交換の場を設定することで、必要感の高い交流の場の価値を実感させる。また、自分とは異なる内容を選んだ児童とも適宜交流することを通して、必然的に友達にとって必要な情報についてのアンテナも高くなる。自分が情報を得るだけでなく、情報を提供することの意義を自然と感じさせることで、協働的な学びにつなげる。</p> <p>■神楽に関わる事前アンケート（「神楽を観たことがあるか」「神楽に興味があるか」等）を通して把握した実態を基に、情報収集に関わる支援を行う。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
整理・分析（２）		
<p>文章の組み立て表を活用しながら全体の構成を考える。</p> <p>説明の工夫を生かしながらリーフレットを作成する。作成したリーフレットを友達と読み合い、文章の間違いを修正したり、よりよい表現に書き直したりする。</p>	<p>○組み立て表に情報を整理することで、書きたいことの中心がはっきりしてきたよ。</p> <p>○アップとルーズの写真を効果的に使って、分かりやすいリーフレットにしたいな。</p> <p>○使う写真を迷っていたけど、友達がアドバイスをしてくれたので、内容に合わせて決めることができたよ。</p> <p>○衣装の意味やかっこよさを伝えるためにはどんな構成にしたらいいかな。</p> <p>目的に応じて、書きたいことの中心をはっきりさせることで、より分かりやすい文章になることを実感している。</p> <p>○「とらの巻」にまとめた説明の技を振り返りながら書いたので、勉強したことが生かされたよ。</p> <p>○A君は、写真と伝えたいことを対応させながら書いているな。</p> <p>神楽の魅力を、より多くの人に分かりやすく伝えたいという思いが高まる。</p>	<p>■ワークシート（組み立て表）に自分の書きたい情報を整理していくことで、伝えたい内容の中心を明確にすること、書く順序を吟味すること、その内容と写真が対応しているかどうか等を吟味することにつなげさせる。</p> <p>■「相手に伝えることで自分の考えを整理したり見直したりする」「相手に助言する」など、学び合いの目的を明確にすることで、なぜ学び合うのかという目的を自覚しながら児童が活動を進めていけるようにし、学び合いの効果を発揮させる。</p> <p>■国語科としての指導事項が定着するよう、リーフレット作成の目的や記述の内容、表現の工夫について十分に理解させる。</p>
まとめ・創造・表現（３）		
<p>神楽協議会や、商工観光課の方に見ていただき、助言を受けることを通して、よりよいリーフレットになるよう加筆・修正を行う。</p>	<p>○リーフレットを手にとってもらうためには表紙や裏表紙の工夫も大切だね。おすすめの衣装を表紙にかいてアピールしたいな。</p> <p>○商工観光課で見せてもらったリーフレットみたいに、裏表紙に安芸高田市の地図や神楽門前湯治村の住所を入れたらどうかな。</p> <p>○美土里小学校の住所や電話を書いておいたら、リーフレットを読んだ人の感想が届くかもしれないね。</p> <p>より質を高めるためには、外部の方をはじめ、様々な視点からの助言をいただくことの大切さに気付く。</p>	<p>■いただいた助言を基に、その課題を改善するためにはどうしたらよいか考えることで、「実行」の場面をより実生活につなげていく。</p> <p>■（実行）作成したリーフレットを「あきたかた神楽東京公演」で配布していただく。</p>
振り返り（１）		
<p>単元で身に付けた力や発揮した資質・能力について振り返る。</p>	<p>○教科書で勉強したことを生かして、書きたいことの中心をはっきりさせながら書く力がついたよ。</p> <p>○説明の仕方を工夫して、文章と写真を対応させて書くことができた。これからも、この力を使っていきたい。</p> <p>○自分達のリーフレットで、神楽の魅力を東京の人に伝えられてうれしい。</p> <p>自分の学びを自覚し、地域の方のために役に立つことができた自分自身に気付く。</p>	<p>■東京公演での配布の様子を画像で見せたり、関係者の評価を伝えたりすることで、自己有用感をもたせる。</p> <p>■本単元で身に付けた力や、資質・能力の発揮を自覚しやすくするため、【知識・情報活用能力】、【協働性】、【自己肯定感】の3つの視点から学びを振り返らせる。</p>

【児童生徒の変容】

地域の伝統芸能である神楽の継承に力を尽くしている方からの依頼に応じてリーフレットを作成し、それを東京公演という大きな場で配布していただくという活動を通して、児童は、神楽の魅力を伝えるための一端を担うことができたという実感をもつことができた。それは、「自分達の力が地域の方の役に立ってうれしい」、「これからもっと美土里の神楽の魅力を伝える方法を考えていきたい」といった単元の振り返りカードの記述からも、既有経験や知識・情報を活用する力、友達と協力しながら課題の解決に向かう力、自己肯定感の高まりがうかがえる。

また、リーフレットの作成というゴールの課題が明確であり、書くために読む、書くために聞く、書くために話し合うというように、単元全体の課題となる言語活動と、本時の学習活動の一つ一つが結び付くように単元を構成することで、何のために教科書で学習するのかという必然性が生まれ、意欲の向上、継続につながっていた。この単元の前に、総合的な学習の時間に書いた新聞と比較しても、目的に応じて写真や書く材料を選び、伝えたいことの中心をはっきりさせて、段落構成を意識しながら、書く力の向上が見られる。